

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和8年2月20日発行

No.157



(第20回新春狼煙あげ：妻籠城址)

妻籠城は防衛拠点としての城で、大名が住むような所ではなかったそうですが、徳川幕府の一国一城令によって壊されるまでは、重要な場所だったようです。

小牧・長久手の戦いでは豊臣方が、関ヶ原の戦いでは徳川方がこの城に入りました。当時は物々しい状況下での狼煙だったと思いますが、現在は平穏な雰囲気で行われています。

小笠原 美雪

第20回新春木曾谷狼煙あげ

日義地域協議会宮ノ越区 千村博章

穏やかな新年を迎え、義仲旗挙八幡の宮、駐車場に15名が集まり狼煙あげをしました。例年参加して頂いた巾恒美さんが、昨年不幸があり欠席され、少々寂しい狼煙あげでしたが、大勢の人で例年に負けないくらいの狼煙あげの煙が立ち昇りました。

この狼煙あげも、すでに20年余になりますが2年程前から、木曾町日義地域協議会の宮ノ越区の主催による開催となりました。そのおかげで若い人の参加者も増えています。また、原野地区では、元旦に明星岩に集まって小人数ながら狼煙あげを行っています。同時開催をするよう打診をしているところですが、それはそれで、継続をしてやってほしいと思っていますところです。

9時集合、準備をして10時半いよいよ点火、狼煙は11時頃までにマックスに達しました。

〈木曾町日義：旗揚げ八幡宮〉



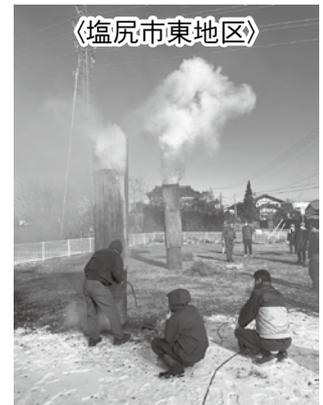
〈木曾町：丘の上〉



〈木曾町：上田〉



〈塩尻市東地区〉



〈木祖村：水の始発駅〉



〈大桑村：和村〉



〈南木曾町：大妻籠〉



〈南木曾町：十三兼〉



〈馬籠峠〉



〈蘇南高校〉



妻籠宿案内人の会視察旅行に参加して

妻籠宿案内人の会 藤田 省三

昨年末に案内人デビューした藤田です。令和7年12月2日に行われた案内人の会の視察旅行についてご報告します。

まず、諏訪大社上社前宮と本宮の中間に位置する神長官守矢（じんちょうかんもりや）史料館を訪れました。守矢家は、上社の祭祀最高責任者である神長官を古代から明治初期まで務め、大祝（おおほうり）諏訪氏を生き神様として祀っておられました。史料館の方のご案内で、展示されている上社前宮の十間廊で4月15日に行われる御頭祭の説明を伺いました。これは、江戸中期に描かれたスケッチをもとに復元展示されたもので、多数の鹿の首や兎の串刺しなどが捧げられています。諏訪大社上社でお分けしている鹿食免（かじきめん）のお札にも通じる古代からの信仰の一端が伺えました。敷地にはミシャクジを祀るおやしろがあります。妻籠宿尾又にあるオシャゴジ様との繋がりを想像しました。

昼食の後、下社秋宮のすぐ近くにある下諏訪宿本陣の岩波家住宅を訪ねました。下諏訪宿は中山道と甲州街道が交わる宿場で、皇女和宮も宿泊されたとのことです。本陣には温泉も湧いており、連泊される方も多かったようです。当主直々のご説明で本陣に宿泊する際に大名が持参した多数の関札を拝見した後、抹茶をいただきながら日本の庭園百選にも選ばれた中山道随一の庭を鑑賞させていただきました。この建物は、代々の当主の尽力で個人的に保存されてきたもので、維持が大変なご様子も伺わせていただきました。



下諏訪宿本陣岩波家



神長官守矢史料館



【2月3日は節分】

2月3日、節分の朝、事務所・まつや・田原家・一石橋立場茶屋の入口に疫病など入ってこないようにヒイラギの枝にイワシの頭をさして飾りました。



58年の歴史を感じて

南木曾小学校 大西 いづみ

晴れ渡る空の下、第58回文化文政風俗絵巻之行列が行われました。心地のよい陽気で、秋の美しい妻籠の景色を楽しみながら歩くことができました。

南木曾に赴任して8年、職場の先輩と誘い合い3回目の参加となりました。一緒に参加できる仲間がいることをありがたく感じます。また、回数を重ねるたびに、人とのつながりが感じられます。以前行列で出会った方と再会する場面もあり、顔見知りが増えていくのも嬉しいものです。

行列の一番の魅力は、様々な装いをした役者に会えることだと思います。武士、旅人、百姓、町娘など、日常と離れた雰囲気にとってもわくわくします。子どもの着物姿は可愛らしく、無邪気に戯れる姿に自然と笑みがこぼれました。中でも花嫁道中は目を引きました。紋付の黒い振袖は格調高く、時代を感じさせます。提灯や祝い樽を持った人が花嫁を先導する様子から、当時の賑やかな嫁入りの様子が想像されました。今回の花嫁花婿役は本当のご夫婦だったようで、お二人が和やかに話す姿を見て、こちらもあたたかい気持ちになりました。

文化文政の時代を表す行列、妻籠宿に鳴り響く陣屋太鼓、喜々と眺める観客、飛び回る子どもたち — 多くの方が妻籠宿に集い、とても賑わっていました。58年続いてきたこの行列が、これからも大切に受け継がれていくことを願っています。皆さんもぜひ、秋の美しい妻籠宿を楽しみながら歩いてみませんか。



神戸市 馬屋原 昭仁

妻籠宿との出会いは妻の学生時代にまで遡る。妻は部活で同期に誘われ訪れ、御宿大吉さんへ宿泊し、どこことなく懐かしく、タイムスリップしたかのような風景の虜となった。その後、妻は友人や親・先輩・後輩などと幾度となく訪れ、やがて私を連れて訪れるようになった。私も妻籠宿に魅せられて、夫婦で中山道を共に歩き妻籠宿ではいつも御宿大吉さんでお世話になっていた。

訪れるうちに行列があることを教えていただき、初めて見たときには圧倒されそして魅了されてしまった。何回か行列を見に訪れていた時、今は亡き大女将さんから「参加できるから参加してみれば？」の一言に外部からも参加できるの？という嬉しさと用意は？の不安が同時に二人の頭に浮かんだ事を今でもしっかりと覚えている。

草鞋など手配してくださり、当日は大女将に手伝っていただき何とか形だけは整え、大勢のカメラマンの方々に囲まれ嬉しいやら恥ずかしいやら。カメラマンもほとんどいない山道を歩いていると本当にその時代にいるかのような気持ちになり足腰の痛みも忘れ、来年もと思うようになっていった。参加する度に出会える方々との交流、沼にはまってしまうように私たちも小物や着物などを揃えて参加することが楽しくてたまらなくなっていく。この行列の素晴らしい所は決して仮装ではなく素朴でその時代に合う風情、姿であるところではないかといつも感じている。

月日は流れ、本当に日本の良さを理解してほしい気持ちとは裏腹に海外からの観光客が増え、行列に参加される方も私共と同様に歳を重ね減っていくばかり…気がつけばお世話になっている御宿大吉さんも女将の傍らに若女将が。今では若女将とそのお嬢さんと歩くようになっていくことに吃驚してしまう。毎回参加させていただきその時代にタイムスリップしながらも自身がそこで様々な歴史を刻んでいることにまた楽しさを覚え、また来年と予約をして帰る

ようになっている。この行列は私共にとってとても大切な行事となっている。

外部から参加させていただきだけでこのような事を言ってもよいものか？と思いながらも行列に関わっておられる皆様の大変なご苦労もあるかとひしひし感じているからこそ、ずっと引き継いでいってほしいと切に願う。行列がすべてではなく、妻籠の良さは他にも沢山あるが、この一つの行事を通して妻籠を大勢の方々に知っていただきたいと思い、参加することで少しでも貢献できていれば嬉しく思います。

初めての参加で飾りであった杖が今は本当に必要となっていますし、腰に差した刀が重くて手に持って歩くようになってきましたが、この行列と共に歳を重ねていけることを楽しみにこれからも可能な限り参加させていただきたいと思えます。



どんど焼き

恋野区 木村 和 恵

1月4日恋野地区においてどんど焼きが行われました。前日降った雪がうっすら残り、冷え込みの厳しい中、8時に点火されました。

当日は、晴れて風もなく、どんど焼きの煙はまっすぐ上に昇り、木々の間から差し込む陽の光が美しくその景色に感動しました。

9時半頃になると続々と人が集まって来てにぎやかになりました。子どもたちも大勢います。恋野区は新年会をどんど焼きと一緒にいきます。

10時頃におきができ、餅が焼ける状態になったところで区長のあいさつの後、皆で餅を焼き始めました。餅のほかにウインナーやみかん、さつま芋も焼いています。子どもたちは串に刺したマシュマロを楽しげに焼いています。大人たちは酒を飲みながら久しぶりに会う面々とおしゃべりをし、子どもたちは甘いマシュマロをおいしそうに食べて、皆楽しい時間を過ごせたようです。

12月21日、寒い中立派などんど焼きを作ってくれた皆さんにも感謝です。これから先もこのどんど焼きが長く続いていくことを願っています。



【文化財防火デー】

1月26日の文化財防火デーはこの冬一番の冷え込みとなりましたが、33名の方が参加しました。まず、地元消防団員5名の指導による水を出すまでの初期消火訓練が行われました。



屋内に入り、木曾消防署南分署長より「出火防止と防火対策について」の講話がありました。皆さん熱心に聞き入っていました。



宿場 暦

11月

- 5日：國學院大學「観光まちづくりフォーラム」
(東京・理事長)
- 6日：衣装部着付け練習、
氷雪の灯まつり実行委員会(常務)
- 7日：第58回文化文政風俗絵巻之行列第2回実行委員会
- 11日：衣装部会：行列衣装準備
- 13日：行列幟旗立て、第2回南木曾町観光振興計画策定委員会(常務)、町道中山道美化工事工事説明会(恋野集会所・理事長)
- 14日：衣装部着付け練習、
新華社東京支局取材来宿(理事長)
- 16日：(株)ドボガン撮影
- 18日：文化学園高校来宿(理事長)、衣装運び出し、
撮影許可審議委員会
- 20日：統制委員会、行列部長会議、行列木戸組立、
広報「妻籠宿」156号発行
- 23日：第58回文化文政風俗絵巻之行列
- 25日：撮影許可審議委員会
- 27日：南木曾町上下水道審議会(理事長)、撮影許可
審議委員会
- 28日：読売テレビ撮影(～30日)

12月

- 2日：重要伝統的建造物群保存地区視察研修(若狭町・
小浜市：正副理事長～3日)、妻籠宿案内人の会
視察研修会(諏訪市・8名参加)
- 4日：行列衣装整理(衣装部会)
- 6日：日本ナショナル・トラスト全国大会
(東京・理事長)
- 7日：令和7年度地域づくりネットワーク木曾支部
(木曾町・理事長)
- 10日：第3回南木曾町観光振興計画策定委員会(常務)
- 11日：木曾谷狼煙あげ連絡会(木曾町・理事長)
- 12日：行列反省会
- 14日：リニア中央新幹線尾越トンネル見学会(理事長)
- 15日：妻籠宿案内人の会役員会、氷雪の灯まつり実行
委員会(常務)
- 17日：リニア中央新幹線工事富貴畑工事説明会(理事長)
- 21日：しめ縄を作る会(分館)
- 22日：統制委員会
- 25日：広報部会(157号企画)
- 26日：事務所仕事納

1月

- 4日：新春放談会(14名)、
第20回狼煙あげ(17か所・239名)
- 5日：夜回り開始(～2月21日)
- 6日：三役会
- 9日：木曾地域文化遺産活性化協議会(木曾町・理事
長)、撮影許可審議委員会
- 13日：美山町北村かやぶきの里妻籠の事例発表
(正副理事長・美山町～14日)、
繭玉づくり(観協女性部)

- 15日：妻籠宿案内人の会学習会・新年会
- 16日：衣装部会
- 17日：日本テレビ撮影(～18日)
- 20日：統制委員会
- 21日：町指定管理者監査
- 23日：地域づくりネットワーク木曾支部総会
(木曾町・理事長)
- 25日：令和7年度第4回観光地点パラメータ調査
- 26日：文化財防火デー(33名参加)、南木曾町博物館
協議会(理事長)、テレビ信州撮影
- 28日：リニア新幹線を活かした地域づくり講演会
- 29日：広報部会

統制委員会審議事項

11月20日

- ・木堀修繕(恋野：個人) 1件
- ・表面波探査(上町：建設事務所) 1件
- ・群状択伐(寺下・細野山：関電) 2件
- ・引込線新設(恋野・中町：中電) 2件
- ・電線張替、防護管撤去及び伐採(尾又：中電) 1件
- ・アスファルト舗装工事(尾又：個人) 2件
- ・支障木伐採(下町水車横：町) 1件

12月22日

- ・群状択伐(下り谷：関電) 1件
- ・支障木伐採(吾妻橋：関電) 1件
- ・導水路背面空洞調査(上在郷：関電) 1件
- ・雨樋修繕工事(下町：個人) 1件
- ・棟瓦の積み直し(尾又：個人) 1件
- ・電話柱の新設及び光屋外線の新設
(大妻籠：(株)TOSYS) 1件
- ・配電線設備の保安伐採(期間延長)
(吾妻橋：中電) 1件

- ・引込線撤去工事(上在郷：中電) 1件
- ・電柱及び電線の撤去・新設、開閉器移設及び伐採
(恋野：中電) 1件
- ・引込線張替(恋野集会所：中電) 1件

1月20日

- ・板底修繕(下り谷：子安観音堂) 1件
- ・雨樋修繕(尾又：個人) 1件
- ・引込線張替及び防護管撤去(上在郷：中電) 1件
- ・引込線新設(下り谷：中電) リニア関連 3件

【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事前に統制委員会への届出が必要となります。申請用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

景観保持のため、宿場内での路上駐車はやめましょう!

発行：公益財団法人妻籠を愛する会
〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻2159-2
TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

下町 磯村 琢 弥

今回は大妻籠にあった江戸時代の神明橋の跡を探しに行きました。神明橋は江戸時代に作られた『中山道分間延絵図』（1806）では、立派な太鼓橋として描かれています。「地名が語る妻籠村」には、江戸時代には現在の位置より30メートル南寄りで5メートル高い位置にあったと書かれています。また、この位置に今は石垣があり、その中に神明橋を架けた大石があるとのこと。当たりをつけて行ってみると、今の神明橋から馬籠方面を見るとカーブミラーがあり、その裏に石垣がありました。



〈昔の神明橋〉



〈この小屋の裏に石垣があります〉

地主さんの話では石垣はもともと道の反対側の旧金剛屋まで続いていたのですが、道路を造るときに途中を壊したそうです。大石を探しにカーブミラーの所にある小屋の裏へと行くと、確かに石垣の中に四角形に切られた大きな石があります。神明橋は尾



〈この大きな石のことかも〉

張藩の直轄で造られたそうなので、この立派な大石で間違いなさそうです。

次に、道を渡った旧金剛屋の床下を見に行ってみます。床下と言っても石段があって下って行け、人が歩けるぐらいのスペースがあります。ここにも石垣があって大きな石があり、一箇所直角の切れ込みがあります。しかし、この石が神明橋と関係あるかはわかりません。当時の川の位置は旧金剛屋の横の石垣のすぐ下を流れていたという話がありますが、橋の向きがわからないので何とも言えません。この辺りは大崖の押し出しにより、川が外へ外へと流れが変わってしまったそうです。「地名が語る妻籠村」の記載によると、1789年の一石桁の土砂崩れでは神明橋だけ残ったそうですが、1802年頃、昨年の大河ドラマにも登場した狂歌師の大田南畝が歩いた際に残した記録では、花屋（現波奈屋）の立場を過ぎて谷に降り、柴橋を渡っているので、立派な神明橋はその時点ではなかったとも考えられます。ただ、冒頭に書いた1806年の絵図には描かれているので、その後には再建されたのでしょうか。



〈旧金剛屋の縁の下〉



〈切り込みがある石〉

次回は熊が冬眠していると信じて山に入ってみようと思っています。